

まちなかいろいろミニ情報

① 江戸時代に国富町出身の竹縄大八郎という名のお相撲さんがいました。大相撲の世界で有名な「逆鉾」の名を最初に名づけた相撲取りです。34号義門寺山内塚には「慰霊碑」があります。

② 33号鑑塚古墳

前方後円墳で北側が大きく崩れています。北側にあった地下式横穴墓から鑑が出てきたことから「鑑塚」の名前がついています。

本庄の町の特徴は古墳群の中に町があり、この事は全国でも珍しそうです。また、4世紀～6世紀ごろの古墳、前方後円墳や円墳、横穴墓、地下式横穴墓の57基が国指定を受けています。本庄の町の歴史は古く出土する土器などから古墳時代の生活程度が高く豊かだったことが分かります。

⑦ 六日町筋・豪商和泉屋跡

和泉屋は江戸期の天領時代に栄えた豪商です。上方（大阪）と交易し本庄の経済・文化の発展に大きく寄与した代表的な豪商です。稲荷神社の夏祭りを興し、それに伴う歌舞伎人形・よいまか・正統六日町儀踊り等は各保存会で伝承されています。国富町の無形文化財に指定されています。

⑩ てんの塚26号墳（墳長63m高さ6m）の上には江戸時代に建てられた金刀比羅神社がありその頃天領地の郡代は日田（大分県）から来た塩屋大四郎でした。神社の施主は南本庄庄屋の長奉覚太郎で航海の安全を願って建てたそうです。和泉屋の持ち船「鵜丸」の船名が書かれた板が残っていて、江戸時代（1828年）の記銘の常夜灯が奉納されています。



てんの塚



てんの塚のエントウくん

⑪ 27号墳猪塚

墳長50m・高さ5m。猪塚の被葬者は副葬品などからその頃の最高首長の人と思われる。てんの塚古墳の南にある前方後円墳です。古墳時代中期後半（5世紀後半）の築造とされます。江戸時代の頃本庄村の弥右衛門と云う人が畑に芋穴掘りをしていて大穴に落ちその穴は地下式古墳の玄室でした。函文帯神獣鏡や甲冑が出土。見つかった副葬品は鹿兒島藩に献上されましたが現在は分かりません。

⑫ 31号京塚は円墳です。南北35m、東西25mで本庄小学校講堂建築のため南部が、町役場新築の際に西部が削られたためかなり原形を損じている古墳です。



上長塚かみなが姫

⑭ 29号下長塚古墳は本庄小学校の敷地内にあり墳丘部分の発掘調査で5世紀頃の円筒埴輪やふき石が見つかり、その円筒埴輪は西部原古墳の女狭穂塚から出土した物と同じ頃に造られた物と同じと思われる。その事が研究者達の注目を浴びています。尚、本庄小学校内には宋仙寺地下式横穴墓などの南九州独自の地下式横穴墓が十基以上見つっています。



⑮ 37号墳上長塚は5世紀中頃に築造され墳長73m・高さ7m。円筒埴輪や身分の高い人にしか差しかけない衣笠をかたどった埴輪、が出土しています。当時国富を支配していた豪族牛の猪井の娘「髪長姫」のお墓では？という言い伝えがあります。髪長姫の美しさは大和地方にまで聞こえていました。やがて大和朝廷へ召されに敏天皇の妃となり本庄の地には帰ることはありませんでした。

⑯ 45号地下式古墳大正時代に発見されました。鉄刀・矢じり等が出土し、二人が埋葬されていた。町内では唯一国指定を受けている地下式横穴墓です。南九州独特の地下式横穴墓の分布は宮崎県の南部と鹿児島県の大隅・志布志沿岸に限られています。

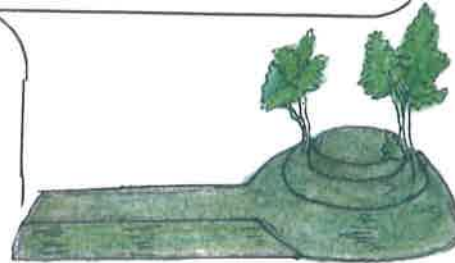


稲荷神社のケンくん

⑳ 剣塚稲荷神社は38号剣の塚古墳の上にあります。墳長は56m、後円径30m、高さ4m。築造時期は不明です。第12代天皇の景行天皇の妃ミハカシ姫のお墓か？神武天皇の兄イナヒの墓？など埋葬されているのがだれかは不明です。熊襲タケルを女装したヤマトタケルが刺した短刀が埋められている塚？などの言い伝えがあります。稲荷神社の「国造神社」には景行天皇の子で日向国造となった豊別命とその子孫・老男命が祀られています。国造神社は九州では熊本県と本庄の稲荷神社の「国造神社」だけです。



③ 18号墳西銚子塚と13号墳・15号墳はほぼ相似のサイズ、形をしていて、4世紀後半～5世紀初頭に築造された古墳と考えられます。本庄古墳群のなかでも全体を見渡すことができる古墳のひとつです。また、後円部はもと3段をなしていたもので現在もその形を見ることが出来ます。



銚子塚

⑧ 本庄の町で文政の大火（1823）という74軒（六日町60軒）を全焼する大火が発生しました。そのことから地蔵塚22号古墳に宇納間地蔵尊（延岡）の分霊を祀り、毎年8月（旧暦7月24日）の火除地蔵さまの縁日では大火の戒めとして坊主姿の稚児の「て踊り」を奉納、200年近く続いています。それ以来火事らしい火事は一度もないそうです。隣接する川越酒造は江戸時代末期のころからある「壺」造りの焼酎蔵（一般未公開）で焼酎「川越」を造っています。

④ 15号古墳の東銚子塚には髪長姫の弟の孫赤兄大使主が朝廷の命令で従軍した時、船が難破して溺死しました。遺体は帰らなかったで代わりに八種の鏡を葬って命の塚としました。このことから東銚子塚の事を「鏡塚」と呼ぶようになったそうです。

⑤ 13号古墳の観音山塚は全長73mの柄鏡式前方後円墳です。国の指定を受けた時にはすでに、前方部と後円部の間が堀りとられていました。昔は墳丘の南側には観音菩薩のお堂があり、そのことで観音山と呼ばれるようになったようです。

⑥ 12号墳上山塚

柄鏡式前方後円墳で、布留式土器が出土していて、4世紀初頭に築造された古墳と考えられます。本庄古墳群のなかでも最古の前方後円墳と思われる。現在は前方部は失われ後円部だけが残っています。

⑨ 六日町に「飯屋」と呼ばれていた家があります。本庄が天領（幕府直轄の領地）の頃日田（大分県）から代官が出かけてきて仕事をするときの滞在場所。代官所の決まった事やお触れ（命令）等を高岡の古川の關所や本庄飯屋前にも立てられていたそうです。

⑬ 本庄名物白玉まんじゅう

本庄名物白玉まんじゅうは、町内に5軒あります。天保の頃（1830年代）六日町で農業をしていた宮永和助（又次郎）とシカの夫婦が稲戸神宮参拝を済ませた帰り堀切峠の茶屋で食べた芋ダンゴがおいしかったので茶屋の老妻に材料や作り方を聞き本庄でこれに劣らぬものを考え、試行錯誤原料をうるち米を使った上品な色艶があり風味豊かな白玉まんじゅうができました。

⑫ 本庄の町が天領の頃（1692年～1867年）、経済が栄え教育もさかんで高妻禮雲・五雲兄弟の開いた塾では千人近くの子弟が禮雲五雲の教えを受け色々な面で活躍した。その子弟たちが五雲兄弟の生家に建てたのが「筆塚」です。また、村人たちと苦難を共にして本庄南用水路の完成にも働いたそうです。

本庄商人たちが活躍した江戸時代本庄が天領だった頃には六日町や十日町という大きな町が生まれ。毎月6日16日、26日に六日町に、10日、20日、30日に十日町に市が立ったそうです。市の日には本庄の百姓たちも農産物を担いで町に集まり、その売り上げて家庭で使う物を買ったそうです。

⑮ 義門寺（浄土宗）

義門寺は1346年南北朝時代に伊東氏一族の細川頼門を供養するために建てられた。寺としては直人上人源阿弥により当初時宗でしたが、その後浄土宗の寺として現在に至っています。義門寺には、1587年天正15年5月、九州征伐「島津討ち」の際、羽柴秀長が豊臣軍の本陣を構えた。この時に「秀長の禁制箇条書き」が残っています。たいへん珍しいもので義門寺の寺宝となっています。禁制文には「町民への狼藉・乱暴・陣取り・放火・竹林伐採の禁止」と書かれています。

⑰ 義門寺石塔群

宝篋印塔・五輪塔・板碑など石造物8基が町の有形文化財に指定されています。なかでも宝篋印塔は九州内でも珍しく花崗岩で造られています。